夢にもおしみなく予算を

結城多香子
交通倫理研究会
会長

Takako YUUKI
Chairman
Traffic Moral Research Committee

車を走らせるための施設環境の、なんと便利に使い良くなったことか。といっても、車を持つことが夢だった時代、自分の車を運転することが夢だった時代、にくらべての話ではある。そして時代が少し進み、自分の車が持てるようになった人達が、少しでも早く、安全に目的地に到達できる環境を夢見て、努力に努力を重ねて造り出したのが今の車社会。

働きバチといわれ、遊びが下手だといわれる世代の人達の夢が、新しい今の社会環境を生み出してきた。

しかし便利に出来上がってきた社会の中で、歩を止め、あたりを見回してみると、何か忘れ物をしてきたような、何かぎくしゃくと生活に馴染まないものがあることに気付くのだ。

車を取り巻く環境の中でも、気になる所が見え出し、あちこちで手直しが始められている。一刻も早く目的地へと高速道路ができた。しかし車線はもう少し多い方がいいと、“東名は広くなります”こんな横断幕をかかげたりしながら、高速道路の拡幅工事が始まっている。安全対策のために設置された信号機や標識は時には街の美観を損なっていたり、親切すぎるほどに乱立する標識を走る車の中から読みとれなかったりする。車は一家に一台、物流だって車の時代と街にあふれている車、さてそれを停めておく所は……と問題が山積してきている。

夢を持ち夢を実現することにより、新しいもの新しい社会が生まれてくる。だからこそ願いたいのだ、その夢にもう少しゆとりと豊かさを、と。そして遊び心が含まれないものだろうかと。

最近鳴物入りで開通した、東京の名所の一つともいわれている夢の掛け橋、レインボーブリッジ。この構想から着工そして完成までの間にも、多くの人達の多くの夢が語られ積み重ねられてきたことだろうと察することができる。しかし、夢の掛け橋を車で走りながら、ふと思った。何故この景色を車を止めてゆっくり見ることができないのだろう、何故写真の一枚もとることができないのだろうと。不謹慎な、とかたづけられてしまいそうな遊び心が頭をもたげたのだ。

遊び心とは、今までの固定観念を取り除き、もっと自由に発想することではないだろうか。例えば、道路に対する固定観念をがらりと変えてみると、車を自由に止めることのできる道路だって生まれてきていいことになる。橋の上だって車を止めるスペースが取り付けられて何等不思議なことはない。車は一刻も早く目的地へ、だけではなくなる時がくるだろう。今は無駄だと思える遊び心にも、少し遠くを見つめながら、予算を付けて行く努力と勇気がほしい。法定労働時間も減り、個人の自由な時間が増え、働く人達の意識も変わってくる。自分達が勝ち取ってきた自由な時間をゆったりと過ごせるゆとりある環境作りが必要だろう。次の世代にも通用する遊び心を持った夢の空間作りがこれからの課題ではないだろうか。

そして、いつか必ず使いこなす時がくるであろうその遊び心のある夢空間、夢施設にも、予算をおしみなくと願いたいものである。

原稿受理　1994年5月26日